

プリロツン® 粒剤

powered by
CYAZOPYR®



だいこんの品質を根の内側から守る

■根からの優れた吸収移行性 ■キスジノミハムシに新しい作用(ジアミド系) ■約3~4週間の長い効果

● だいこんにおけるプリロツン®粒剤作用特性モデル

● 種子 ● 薬剤

有効成分は展開葉に移行し、地上部害虫への効果も期待できます。

- ・ ウイルス病を媒介するアブラムシ類
- ・ 葉を食害するチョウ目害虫*2

有効成分を保持する根をキスジノミハムシ幼虫が食害する*3 ことで効果を発揮します。

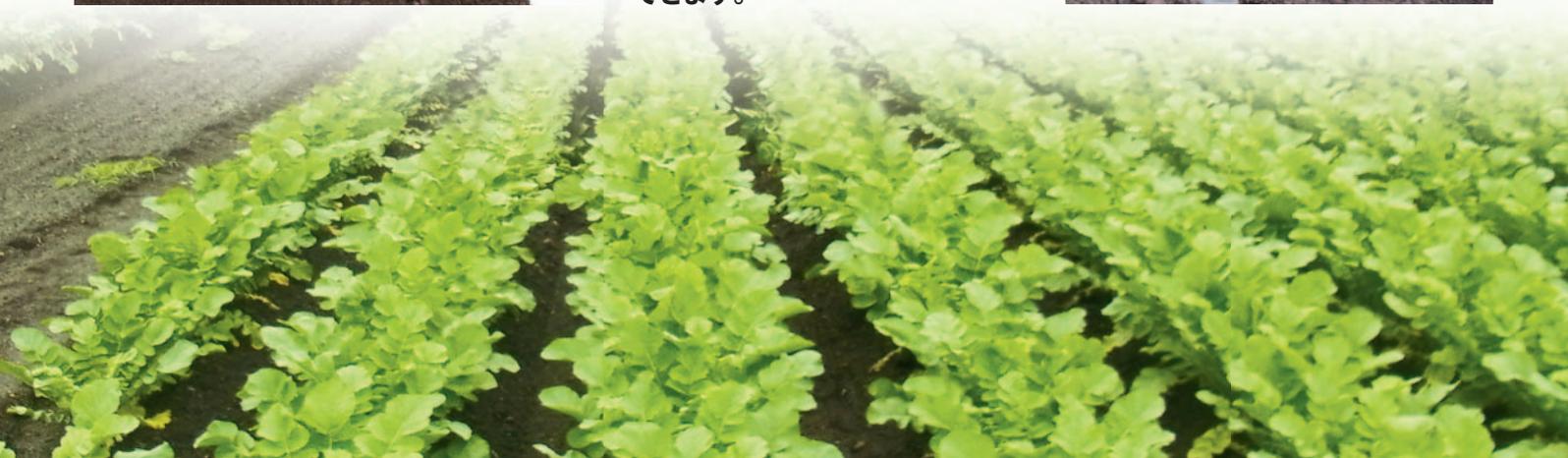
3~6cm
種子と同層以下で処理*1

*1 処理深度3~6cmを目安にしてください。
*2 コナガ、アオムシ、ハイマダラノメイガに登録があります。
*3 食害により取り込まれる極わずかな量で効果を発揮しますので、作物外観への影響はありません。

● アタッチメントを用いた処理例

船形アタッチメント

船形アタッチメントを取り付けることで、溝を切りながらプリロツン®粒剤を処理できるので、適切な深度への処理ができます。



難防除害虫キスジノミハムシ対策に新しい作用性をプラス!

プリロツソ® 粒剤は、播溝土壌混和处理用の単剤として、だいこんのキスジノミハムシに有効な初めての殺虫剤です。既存剤と異なる作用を示す、全く新しいタイプの薬剤です。

より効果的な 使用方法

- より適切な土壌条件を整える(粒剤のため、水分を得ることで有効成分が溶出します。)
 - 適度な土壌水分が確保されている状態
 - 処理後、降雨が見込まれる時
- 収穫までの防除体系を組む
キスジノミハムシ防除は地下の幼虫だけでなく、地上の成虫防除も同時に行うことで、防除の成功率が高まります。



キスジノミハムシによる被害



根を食害するキスジノミハムシ幼虫



葉を食害するキスジノミハムシ成虫

■適用害虫と使用方法(適用表から一部抜粋)

2018年5月現在

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリブロールを含む農薬の総使用回数
だいこん	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ カブラハバチ キスジノミハムシ ネキリムシ類	6kg / 10a	は種時	1回	播溝土壌混和	4回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、 散布は3回以内)

*だいこんのほかキャベツ、はくさい、ブロッコリー、レタス、なす、トマト、ミニトマト、きゅうり、ピーマンにも適用があります。

△ 効果・薬害等の注意

- アルカリ性肥料との同時施用はさけてください。
- つまみ菜・間引き菜には使用しないでください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△ 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意してください。
- 密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷蔵・乾燥した所に保管してください。

グループ 28 殺虫剤

殺虫剤抵抗性管理(IRM)

一般推奨事項: 薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、プリロツソ® 粒剤または他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト
(1) Insecticide Resistance Action Committee(IRAC)ウェブサイト (<http://www.irac-online.org>)
(2) <http://www.fmc-japan.com/Agricultural-Solutions/IRAC>

- ラベルをよく読んでください。
- 記載以外には使用しないでください。
- 小児の手の届く所には置かないでください。
- 空袋は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。
- 防除日誌を記帳しましょう。

